

令和8年度 調布市立国領小学校 学校経営計画 (学校長 武田 美穂子)

学校の教育目標	
仲良くする子	元気な子 ◎よく考える子 (本校重点目標)
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
<p>「認め合い、高め合い、笑顔あふれる 素敵な学校」</p> <p>主体的で対話的な深い学びの充実と個別最適化を図った学びの充実を図ることで、児童一人一人が互いを認め合う風土を育み、さらに学ぼうとする意欲を高める学校として、自他を尊重し、互いを認め合う関係から、思いやりの心を育てていく。また、保護者・地域も教育活動への参画・支援・協力を通して、共に学び、育ち合う学校づくりを推進し、国領小学校にかかわる人すべてが「認め合い、高め合い、笑顔あふれる素敵な学校」を目指す。</p>	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明るく素直な児童が多く、学習や行事に意欲的に取り組む。しかし、学力・体力には二極化傾向があり、より一層の授業改善を図る必要がある。 ・ 学習規律・基本的な生活習慣の定着を図るとともに、個別に支援を要する児童や不登校傾向の児童について、関係諸機関と連携をとりながら、重点的に改善を図っていく。
中期的な経営目標	
<p>① 思いやりの心や規範意識をもち、自他を尊重する児童を育成する。〔調布市教育プラン施策1〕</p> <p>② 基礎基本の定着を図り、主体的・対話的で深い学びを創り出す児童を育成する。〔調布市教育プラン施策2-6〕</p> <p>③ 健康維持・体力増進のため自ら考え、判断し、実践する児童を育成する。〔調布市教育プラン施策3-10、11〕</p> <p>④ 安全・安心な学校、地域と共にある学校を推進する。〔調布市教育プラン施策6、5-15〕</p> <p>⑤ 読書活動を通して、児童の「豊かな心・感性」を育み、「確かな学力」の基礎を醸成する。〔調布市教育プラン施策2-9〕</p> <p>⑥ 特別支援教育コーディネーターを中心に、組織的に個に応じた指導を行い、児童の自尊感情や自己肯定感を高める。〔調布市教育プラン施策4〕</p>	
人・組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主幹教諭・主任教諭を中心に、組織的に教員の授業力・資質向上を図る。 ・ 教員個々が「なりたい自分」を見つけ、自己のキャリアプランを明確にし、その職層に応じた学校マネジメント能力の視点の育成を図る。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 児童の自尊感情や自己肯定感を高める教育の充実を図るために、たてわり班活動や校内緑地化、ボランティアスタッフ等とのかかわりの機会を計画的に取り入れる	① 第3～6学年における教科担任制の実施、第1・2学年による弾力的なT.T授業や習熟度別指導等を取り入れ、各教科・領域における学力の基礎的・基本的な力の定着を図る。	① 児童の健康維持・体力増進への意識を高め、基本的な習慣の定着を図る。運動の楽しさを実感する体力向上に向けた取り組み(チョコブラ1の実施、体育週間年3回の充実等)を行う。
② 人とかかわりを大切にされた教育活動の下、「いじめをしない、させない集団づくり」を行うと共に差別や偏見をもたない人権尊重の意識を育てる。	② 主体的・対話的で深い学びとなる授業の創造を目指すとともに、各教科・領域において、言語活動を充実させ、自分の考えを表現する力を育成する。	② 国際理解教育や日本の伝統文化理解教育等、オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを引き継ぐとともに、プロフェッショナルに触れる機会を一層充実する。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 各学年・学級の毎学期の振り返りをもとに、個々の児童の課題を捉えるとともに、「あいさつ」や「きまりを守る」項目において、85%を目指す。	①② 学校関係者評価アンケート・児童アンケートにおいて、学習内容の理解に関する肯定的評価85%を目指す。	①② 学校関係者評価アンケート・児童アンケートにおいて、健康・体力増進に関する肯定的評価85%を目指す。
② 学校関係者評価アンケート・児童アンケートにおいて、「楽しく学校生活を送っている」という項目において肯定的評価85%を目指す。		
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 保護者・地域との連携の強化	5 読書活動の推進	6 個に応じた支援の推進・充実
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① コミュニティ・スクールとしての機能を発揮し、地域人材の発掘や地域と連携した教育活動(緑地化活動、学習支援、放課後事業等)を充実させるとともに、地域学校協働本部を中心に、家庭・地域との連携・協力を一層進める。	① 朝の時間の弾力的運用として週1回の朝読書15分をモジュールとして国語の指導とし、読書活動の推進を図る。また読書週間を年間2回実施するとともに、文化講座を各学年実施する。	① 個に応じた指導・支援を通して、学校生活の基礎・基本の定着や自己肯定感を高める指導を行う。支援を必要とする児童・家庭について特別支援Co.を中心とした校内委員会(月1回)で組織的に対応する。
② 幼保小・小中など校種間連携を推進すると共に、学校だより(1回/月)やHP(ほぼ毎日)を活用して教育活動を適時に分かりやすく発信する。	② 学習センター機能を備えた図書室とするため、保護者・地域人材を活用し環境整備、図書の整備等を充実する。	② 支援員や地域人材による学習補助や放課後の補充学習、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境、不登校の児童の状況に応じた指導ができる教室の整備や人材の確保も行う。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①② 学校関係者評価アンケートにおいて、学校と地域・PTAとの連携に関する肯定的85%を目指す。	①② 学校関係者評価アンケート・児童アンケートにおいて、読書活動に関する肯定的評価85%を目指す。	①② 学校関係者評価アンケートにおいて、個別指導の充実に関する肯定的評価85%を目指す。

人材育成・組織運営
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育目標の達成のための手立てとして、本校の特色ある教育活動「読書活動 Reading Activity」「異学年交流 Interchange Activity」「体験的な活動 Nature Activity」を「凛(RIN)教育」と設定し、教職員全体に目指す教育活動を共有し、取り組む基盤をつくる。 ・ 「国領スタイル(学習版・生活版)」を全教職員が徹底して取り組めるよう、教務・生活指導・特別支援教育が校内研究において協働できる研究組織を立ち上げる。 ・ 教科担任制の実施における、各種の課題を改善するための校内研究を実施する。 ・ 各学年に副担任を配置し、学年2学級を3人で把握する体制を整える。また、学年主任を中心に学年団が学年全体を把握するとともに、若手教員の児童理解や学級経営力、授業力向上を図る。 ・ 職層を意識したOJTを実施し、組織的な教員の授業力・資質能力の向上を図るとともに、手本となる先輩教員としての資質も向上させていけるよう、主任教諭の活躍の場を設定する。 ・ 管理職選考や東京教師道場、東京都教育研究員、調布市マネジメント研修等、経験年数を考慮した個々のキャリアプランの実現に向けた研修を進める。 ・ 児童にとって安心・安全な教育環境を築くことを第一に考えるとともにその環境を築く教職員同士が学び合い、認め合う集団となるような風土を築く。